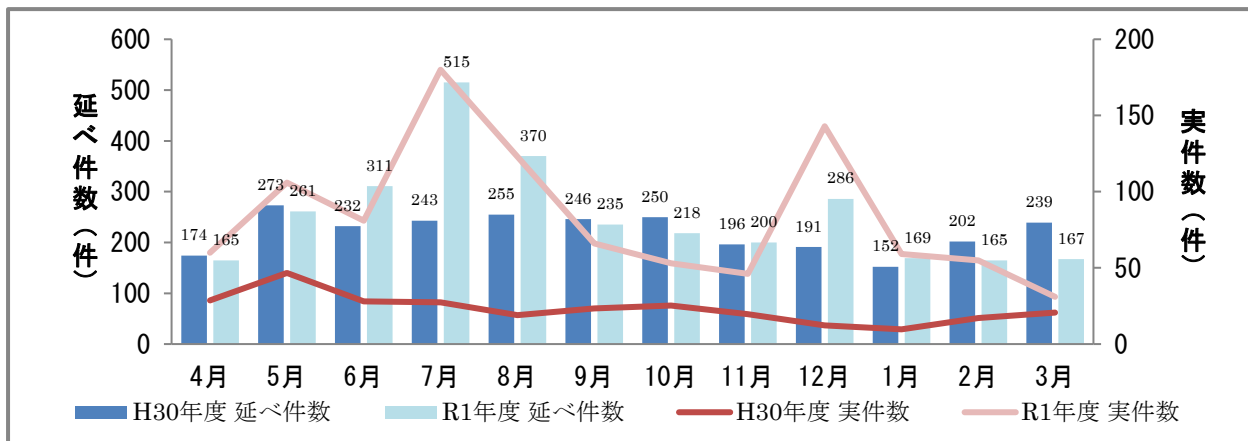


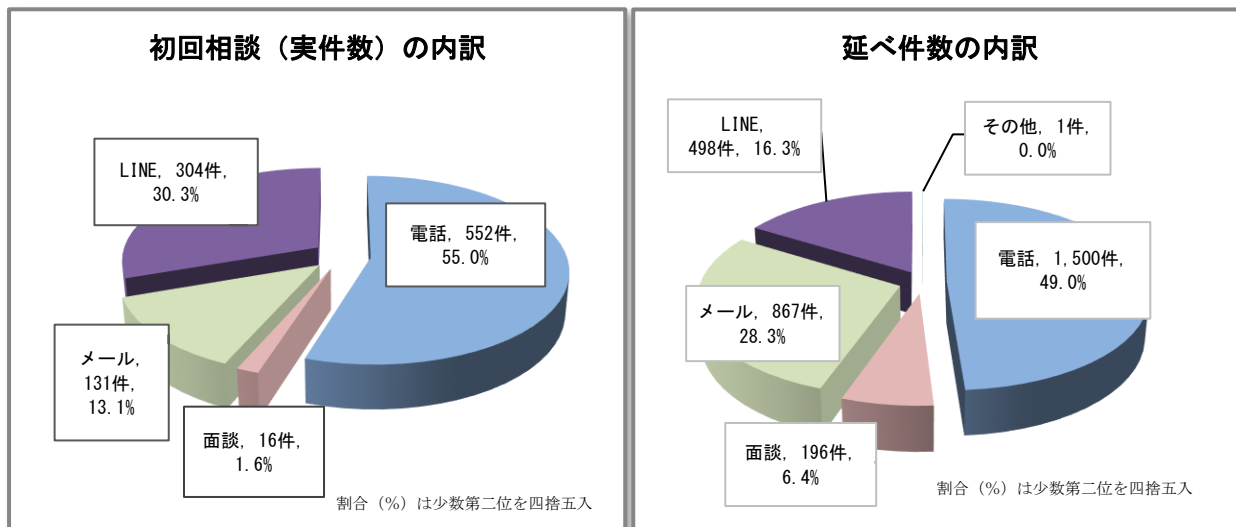
# V 令和元年度の統計データ詳細

## 1 月別相談受付状況



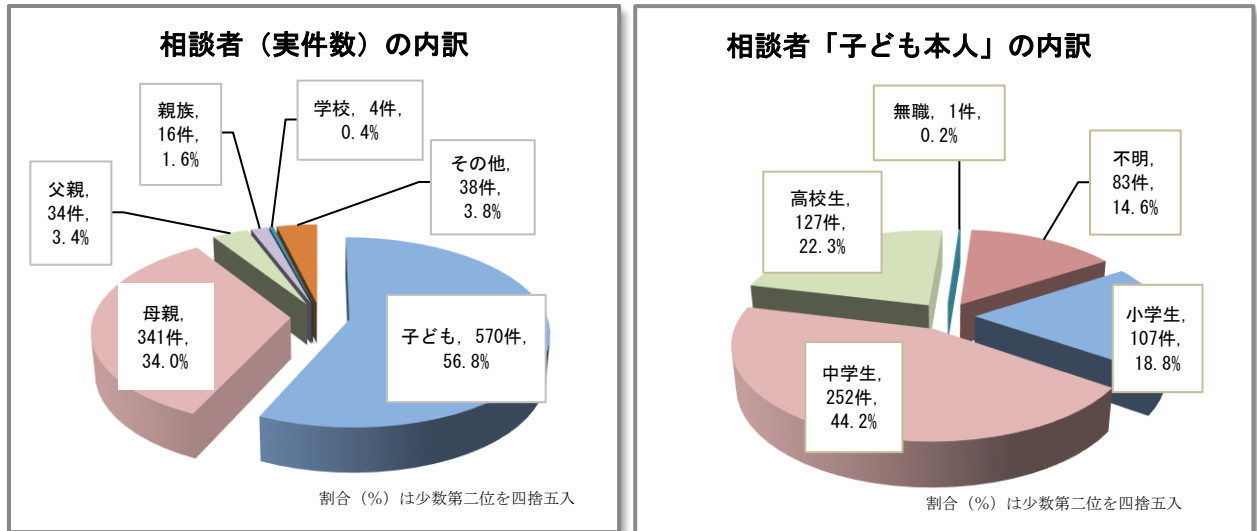
令和元年度は、5月、7月、12月に子ども用相談カードを配布（5月：小学生及び特別支援学校生徒、7月、12月：中学生及び高校生）しました。また、2月には大人向け広報紙「あしすと通信」を、小、中学校を通じて全児童、生徒の保護者に配布しており、これらの広報物の配布直後には、PRの効果により相談件数が増加する傾向があります。

## 2 相談方法の内訳



初回相談については、電話による相談が最も多く5割以上となっており、延べ件数についても電話による相談が約5割を占めます。メールによる相談は、やり取りの回数が増える傾向があるため、延べ件数では約3割を占めています。LINEによる相談は、実件数と延べ件数に比較差がなく、相談は1回のみが多いことが特徴的であると言えます。

### 3 相談者、相談者「子ども本人」の内訳



相談者とは、相談してきた人のことをいいます。子ども本人及び母親からの相談が合わせて9割以上を占めております。また、子ども本人の中では、中学生からの相談が多い傾向があります。

延べ件数における相談者と相談方法のクロス集計は、下表のとおりです。

例年同様、保護者からは電話による相談の割合が多く、子ども本人からはEメールによる相談の割合が多くなっています。また、LINEは期間を限定して実施したにもかかわらず割合が高く、LINEは子どもにとって気軽なツールであることがうかがえます。

相談者と相談方法（延べ相談者数）

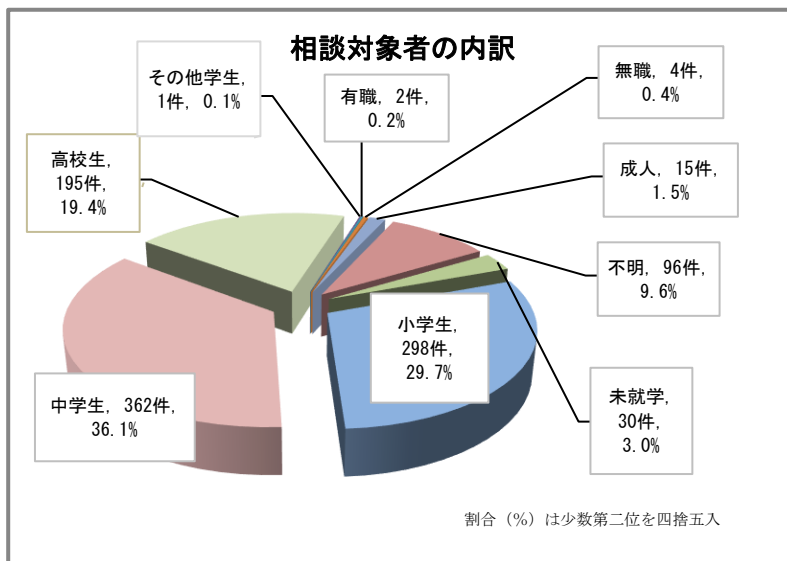
区分	子ども本人	父親	母親	親族	学校	その他	合計
電話	571	75	720	18	67	49	1,500
	18.2%	2.4%	23.0%	0.6%	2.1%	1.6%	47.9%
面談	111	52	84	4	12	5	268
	3.5%	1.7%	2.7%	0.1%	0.4%	0.2%	8.6%
Eメール	759	26	68	3	0	11	867
	24.2%	0.8%	2.2%	0.1%	0.0%	0.4%	27.7%
LINE	497	0	0	0	0	1	498
	15.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.9%
その他	1	0	0	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	1,939	153	872	25	79	66	3,134
	61.9%	4.9%	27.8%	0.8%	2.5%	2.1%	100.0%

※相談者が複数の場合があるため、合計は相談件数に一致しない。

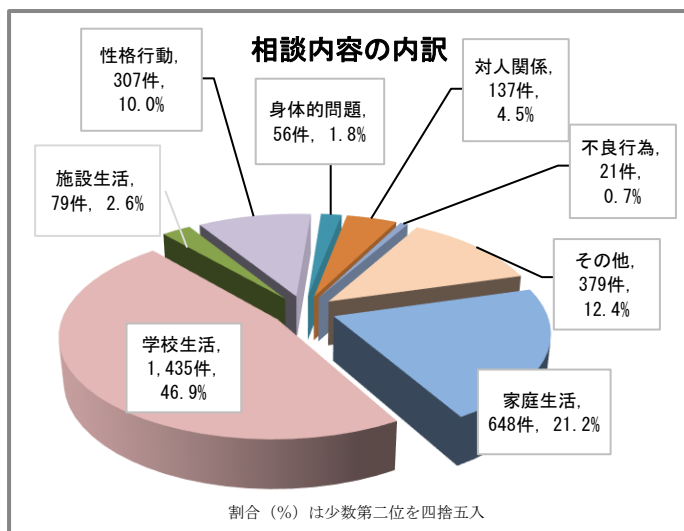
※その他：同行訪問

#### 4 相談対象者<sup>(5)</sup>の内訳

相談の対象となった子どもの内訳は、小学生が約3割を占めており、中学生が約4割、高校生が約2割を占めています。



#### 5 相談内容の内訳



子どもアシストセンターでは、相談内容を「家庭生活」、「学校生活」など8項目に分けています。

延べ件数全体で相談内容の内訳をみると、「学校生活」に関する相談が約5割を占め、次に「家庭生活」、「性格行動」についての相談が多く、これは例年と同様の傾向です。

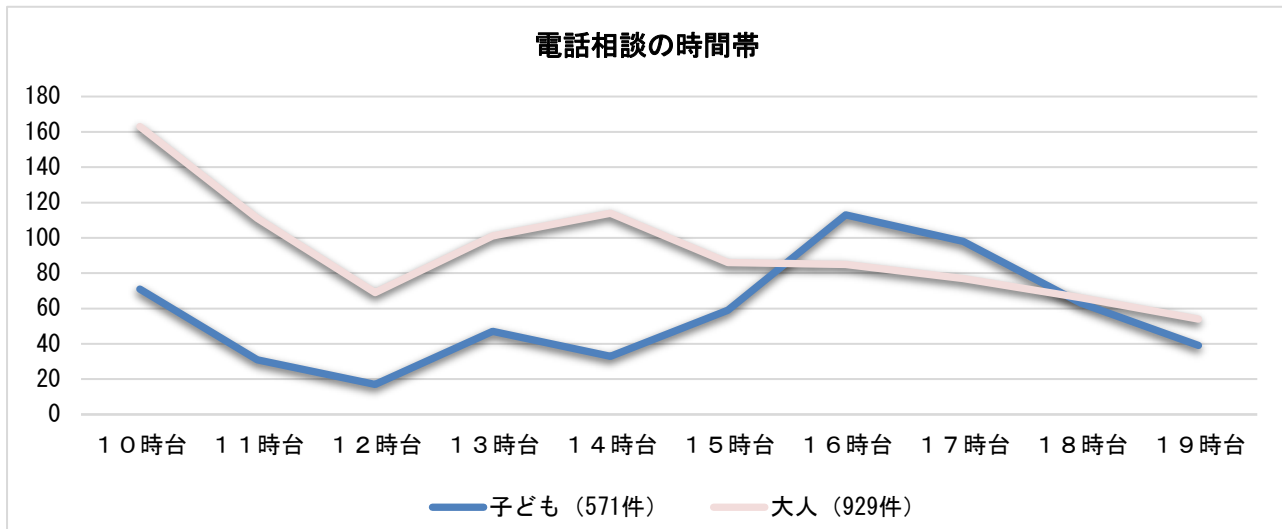
さらに33の細目に分けると、上位5項目は、下記のとおりです。

子ども (1,939 件)		大人 (1,123 件)	
① 友人関係	290 件 (15.0%)	① 不登校	155 件 (13.8%)
② 学習・進路	169 件 (8.7%)	② 子どもと教師の関係	148 件 (13.2%)
③ 精神不安	156 件 (8.0%)	③ 養育・しつけ	107 件 (9.5%)
④ 親子・兄弟関係	118 件 (6.1%)	④ いじめ	97 件 (8.6%)
⑤ いじめ	115 件 (5.9%)	⑤ 親子・兄弟関係	70 件 (6.2%)

##### (5) 相談対象者

相談の対象となっている子どもを指します。母親から小学生に関する相談があった場合には、「相談者」は母親となり、「相談対象者」は小学生となります。中学生の子ども本人が自分のことについて相談してきた場合には、「相談者」は子どもとなり、「相談対象者」は中学生となります。

## 6 電話相談の時間帯



子どもについては、学校から帰ってきてからの時間帯（特に15時～20時）に多くの電話相談を受けています。一方、大人からは、午前中にも多くの電話相談を受ける傾向があります。

相談時間を20時までとしていることは、特に子どもにとって利便性があるといえます。

## 7 その他

相談件数として計上はしていませんが、子ども専用の通話料無料電話には、無言電話やいたずら電話が954件ありました。（平成30年度は709件）

かけてきたのは、ほとんどが子どもであると思われませんが、中には相談をためらっていたり、相談員の反応を確認したいという気持ちが含まれていたりする可能性もあるため、慎重に対応しています。